

第2回「地域フォーラム」概要

開催テーマ テーマ1「健康・医療・介護」

テーマ2「協働と連携のまちづくり・奈良モデル」

日時 平成27年9月22日(火・祝)14時～16時30分

会場 三郷町文化センター 1階 文化ホール

【テーマ1】「健康・医療・介護」

<p>挨拶・ 資料説明</p>	<p>荒井奈良県知事</p> <hr/> <p>地域フォーラム開催の挨拶 資料説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県の人口推移 ・市町別人口推移 ・奈良県の健康寿命 ・奈良県健康ステーションの設置 ・生活支援スマホの開発 ・マイ健康カードの導入検討 ・地域医療構想の策定 ・地域包括ケアシステムの構築 など
<p>取組説明 ①</p>	<p>森三郷町長</p> <hr/> <p>三郷町の現状と行政の取り組みについて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防事業で、地域包括支援センターが中心となり、認知症予防教室の実施 ・高齢者で物忘れ相談プログラムの実施 など
<p>取組説明 ②</p>	<p>今中上牧町長</p> <hr/> <p>上牧町の現状と行政の取り組みについて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地区の公民館を利用した体操教室の実施 ・体操教室の指導者の養成研修会の実施 など
<p>取組説明 ③</p>	<p>平井王寺町長</p> <hr/> <p>王寺町の現状と行政の取り組みについて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「てくてく健康チェックデー」を設け、個人個人に沿ったメニューを保健センターを中心に相談の実施 ・ウォーキング教室、シルバーウォークや家族で歩いてもらうファミリーウォークの実施 など
<p>取組説明 ④</p>	<p>岡井河合町長</p> <hr/> <p>河合町の現状と行政の取り組みについて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操で健康タウンをつくっていく取り組みの実施 ・総代自治会長会、老人クラブ、民生委員、スポーツ推進委員等を中心にラジオ体操普及委員会の発足 など
<p>取組等 説明</p>	<p>奈良県立医科大学健康政策医学講座 今村教授</p> <hr/> <p>テーマ「健康・医療・介護」について取り組み等説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2025年における慢性的な疾患を抱える高齢者や要介護人口の増加 ・国の新法による病床再編と在宅医療へのシフトを進める政策誘導 ・地域医療構想の策定について <ul style="list-style-type: none"> 急性期中心の医療から慢性期の医療へシフト 在宅医療と在宅介護サービスの需要爆発 在宅医療の問題点(訪問看護師の不足、老々介護 など) ・奈良県の現状(要介護認定者数の増加、訪問看護師の不足 など) ・地域包括ケアシステムの構築 など

意見①	森三郷町長
<p>今、全てにわたって、医療と介護がセットになるという話で進んできたのではないかと思います。西和地域の西和医療センターが、西和地域在宅医療・包括ケア推進プロジェクトを立ち上げられたのも、そこにあるのではないかと思います。</p>	

意見②	今中上牧町長
<p>上牧町でも保健師の数がものすごく不足しており、なかなか雇用できない状況です。各町によって雇用条件が違いますので、皆さんやはり良い条件のところへ行かれるということになります。これから保健師が一番必要な時期で、一番必要な人材でございます。</p> <p>この人材がしっかり確保できないということになってきますと、地域包括ケアシステムが成り立っていかないということになるのではないかと思います。</p> <p>保健師さんの養成をしっかりと県の方でもお考えをいただき、取り合いにならないように、雇用条件が異常なことにならないように、ぜひ上牧町としてはお願いしたいと思っております。</p>	

意見③	平井王寺町長
<p>この地域の医療・介護、いろいろな面での拠点がやはり西和医療センターであることは間違いないわけです。</p> <p>子どもたちの医療的なケアをどう確保するかということが各町村単位でなかなか難しいものですから、ぜひこれを西和医療センターのほうで、広域の機能ということで、我々がいろいろ負担をするということも当然想定しながら、そういったサービスの拠点として構築していただきたいと思っております。</p> <p>一つは小児科の医療です。休日とそれから夜間の、一次救急ですけれども、我々には組合による三室休日応急診療所がございます。しかし、やはり小児科の先生がおられないために、なかなか本来の一次救急が機能していません。</p> <p>小児科のお医者さんの確保が第一前提だのように思っています。救急の診療所がございますので、何とか西和医療センターを中心に小児科のドクターを確保して、一次救急体制を構築していただきたいと思っております。</p> <p>小児科の二次救急は北和と中南和の二つに分かれておりまして、我々は広域7町なのですが、平群町、三郷町、斑鳩町、安堵町は北和地域に、上牧町、王寺町、河合町は中南和地域に入っています。そういった多少の地域的な齟齬をきたしているということで、二次救急も何とか確保していただければありがたいと思っております。</p> <p>それぞれの町で病児保育を確保するのは非常に難しいです。近場で何とか、西和医療センターの中で病児保育を確保していただきたいと思っております。</p>	

意見④	岡井河合町長
<p>今後、看護師、あるいは介護士が少なくなります。この手立てをどうすればいいのかと考えています。私は、白鳳女子短大で医療等を勉強されている国内、海外の方、そういう方たちとの連携をもっと深めていくことができたらどうなのだろうかと考えています。そして国内で頑張っていただけるような方たちを育成していくことができたらどうなのだろうかと最近よく考えることがございます。</p> <p>世界中から日本へ来て試験を受けたけれども、日本語が分からずに資格が取れないとか、様々な問題が今までもございました。そういう方のフォローができるような地域の連携というものがないかと思っております。</p>	

意見⑤	荒井奈良県知事
<p>周産期の事故があつて医大の産婦人科に力を入れて、産婦人科の確保にも力を入れていただいています。医療と介護ですけれども、医療のことについて平井王寺町長が小児科について発言されました。小児科は大事な医療でありますけれども、小児科が非常に充実している地域と、そうでない地域があります。これは県内全体で、どこにでもお子さんを連れていくことができるというような、一次病院と言われる近くの病院や、まちの中に小児科があればよいのですが、小児科はなかなか夜中に開いていないことが多いです。桜井や橿原地域では輪番制をとっておられます。この地域で地区医師会と話をされて、地区輪番制をとっていただいているかどうかと思います。地区輪番のとき、アメリカでは病院の中に休日夜間診療所が置かれています。</p> <p>西和全体の休日夜間診療所をどこに置くのかということと相談されて、ここに置くから、この地域の小児科医は輪番制でやってほしいということで、二次医療圏で一次の小児の輪番制があり、休日夜間の診療所があれば、そのときに西和医療センターや病院で休日夜間診療所を置くような形はアメリカなどでも普及しております。</p> <p>地域の医療とのアクセスを確保するのは地域の首長の役目です。医療の良い病院が近くにあれば、頻繁に受診することにより医療費が高くなるということもあります。</p> <p>医療と介護について、医療だけでは健康で長生きはできません。介護施設に入らずに、地域で健康的に長生きしようよということが課題で、地域の健康意識が高まると随分寿命が上がってくるということがよく分かってきました。</p> <p>65歳平均自立期間について、男性の場合ですけれども、全国1位が長野県で、奈良県は13位です。この長野県と奈良県、男性も女性もですが何が違うのか調べましたら、極端に違うのは、まず一つは野菜の摂取量が長野県が一番で、奈良県は最下位に近いです。高齢者になられると血管が傷んで、脳梗塞とか心筋梗塞になられる方が多いのですが、実は野菜は塩分や血管を害するものを流すと言われていて、野菜の摂取量が多いと血管を柔らかく維持することができるので、血管病によいのではないかとこの説がございます。野菜の摂取量がこれだけ低いと、その差もあるのではないかと思わなくもありません。また、長野県と極端に違いますのは、高齢者の就労率です。就労率が長野県は全国トップクラス、奈良県は全国40位台でございます。</p> <p>もう一つ違いが出てくるのは、がん検診です。がん健診をたくさん受診されているところとそうでないところとは、がんの死亡率に差が出るのではないかと思います。それはがん検診を受診されると、全体的に健康マインドが高くなり、健康を大事にしようという地域の力が向上していくのではないかと思います。</p> <p>終末期医療がこれから大事です。健康カードで終末期医療をどのようにしていくのかについて、延命治療の可否を先程の健康カードの中に書き入れておいていただくのも一つかというように思っております。これから医療・介護難民が出てくる可能性がございますが、奈良県では県民の方が難民にならないような地域にしていきたいと思っております。</p>	

意見⑥	奈良県立医科大学健康政策医学講座 今村教授
<p>今、人口構成が変わろうとしていることを、もう一度、注意喚起させてもらいたいと思います。</p> <p>団塊の世代と言われている方、70歳ぐらいですけれども、この方々が270万人おられます。そして今、新しく20歳になる方が120万人ぐらいです。すると、どういふ現象が起こっているかという、働く世代の方々がその差だけ減るのです。毎年100万人から150万人ずつ働く世代が減って、そして高齢者の方々が100万人から150万人増えるということが向こう10年間続きます。すると、劇的に社会構造が変わっていきわけです。</p> <p>急性期医療が非常に問題になっております。それは急性期医療の年齢層が多いからです。その急性期医療の方々はこれから減っていくのです。急性期医療は重要ではありますが、これからより一層、慢性期医療の問題が大きくなってきます。このまま続いていくと、慢性期の医療の方を病院で受けるために、急性期医療が受けられないというような事態が本末転倒としても起こってきます。ですから、今の現状として問題を解決するだけではなくて、向こう10年間、少なくとも変化が起こることを見越して対策を考えていかなければなりません。</p> <p>そのためには、先程の地域包括ケアといった地域全体で支えていくような体制をつくらうとなったとき、マンパワー的にはどう考えても足りなくなってくるのです。ですから、それにどのように対応していくか。その中でも、やはりコアになるのは健康づくりだと思ふのです。特にお年を召されても、社会参加がずっとできていく地域では病気も少ないですし、医療費も少ないということがあります。</p> <p>例えば口腔ケア一つをとってみても、きちんと口腔ケアをきれいにしている方々は病気が少ないというようなデータがあり、その方々は医療費も少ないというようなことがあります。ですから、この健康づくりを後期高齢者の多い社会に向けてどう行っていくのかということ、そして社会全体でどうやって支えていくのかということを考えていかなければならないと思います。</p>	

総括	公立大学法人奈良県立大学 伊藤副理事長・学長
	<p>まず最初に、荒井知事からご説明をいただいた後、各町長様からは行政の取り組みについての様々なご意見をいただきました。それぞれ特徴のある取り組みだったと思います。</p> <p>森三郷町長からは、介護予防と健康づくり、この2つの事業の中で、介護に関しては科学的な取り組みで対応しておられ、健康づくりについては情報発信もされているというご説明がありました。荒井知事へのご質問もありましたが、西和医療センターの役割に期待されているということでございました。</p> <p>今中上牧町長からは、主に公民館を活用し、体操を通じて、まず人づくり、仲間づくり、そして最終的にそれが健康づくりにつながっていくような取り組みをしておられるというご説明がありました。</p> <p>平井王寺町長からは、健康づくりの拠点づくりについてお話がございました。これは県の取り組みでありますけれども、健康ステーションをリーベル王寺の中につくられたということ、それからそういった健康づくりのための活動を支援する環境づくりに積極的に取り組まれているというご説明でございました。</p> <p>岡井河合町長からはラジオ体操を活用して、それに関連するような人材、人づくり、それからまちづくり、健康づくりに、今中上牧町長さんと同じような考え方で取り組まれているというご説明でした。非常に地道な取り組みですけれども、確実に健康づくりに取り組まれていると思います。</p> <p>今村先生からは客観的なデータに基づきまして現状の課題を指摘されるとともに、今後どのように対応するかということをご説明いただいたと思います。</p> <p>それから、追加の意見としては、各町長さんに共通して言えることですが、医療と介護というのは一体として考え、整備をするのだと、あるいは取り組んでいくべきだということです。</p> <p>その中でも、特に今後の医療、介護を支える人材不足の問題に何とかして対応していくべきという意見がありました。同時に、健康・医療・介護等に関して住民一人一人が意識をしっかりと持つことも非常に大事だとおっしゃっていただきました。</p> <p>荒井知事からは、具体的にご提案と、奈良県が市町村、自治体と連携協力して、また奈良県がそれを支えていくという中で、医療・介護の問題について対応していきたいというご意見があったかと思います。</p> <p>今村先生からは、特に最初の方にご指摘いただきましたけれども、今、人口構造が大きく変化をすることが確実に見えているわけですから、それに対応して健康づくりのあり方を考えていくべきだろうというご意見をいただいたと思います。</p>

【テーマ2】「協働と連携のまちづくり・奈良モデル」

<p>挨拶・ 資料説明</p>	<p>荒井奈良県知事</p> <p>地域フォーラム開催の挨拶</p> <p>資料説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方自治のあり方の変化(「地方分権」から「住民自治」へ) ・市町村合併による地方行政モデルの限界と奈良モデルの取り組みによる県と市町村の連携・協働 ・県と市町村との連携協定締結によるまちづくり(高取町) ・県域水道ファシリティマネジメント、道路インフラの長寿命化、公共交通の確保、消防の広域化による県と市町村の連携と進捗状況 など
<p>取組説明 ①</p>	<p>森三郷町長</p> <p>三郷町の現状と行政の取り組みについて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光と福祉の連携プロジェクト ・信貴山地区を生ごみ資源化モデル地区に指定 ・観光事業として信貴山地区全体を一つの庭と捉え、信貴山・大門ダムを中心にダム周辺や道路に植栽し、庭づくりを展開 など
<p>取組説明 ②</p>	<p>今中上牧町長</p> <p>上牧町の現状と行政の取り組みについて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年に上牧町まちづくり基本条例を制定 ・平成25年に特定非営利活動法人楽しいまちづくりの会を発足 ・奈良県立大学と協定を締結し、アンケート調査、ワークショップ開催など、特定非営利活動法人楽しいまちづくりの会と一緒に活動 など
<p>取組説明 ③</p>	<p>平井王寺町長</p> <p>王寺町の現状と行政の取り組みについて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三郷町、王寺町が連携した観光振興・健康増進 ・大和川を親水空間の美化と併せて健康増進の拠点にする発想から、兩岸をジョギングコースに整備 ・三郷町と王寺町でジョギングコースの具体的な整備を渇水期から始める計画 など
<p>取組説明 ④</p>	<p>岡井河合町長</p> <p>河合町の現状と行政の取り組みについて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良モデルを活用した基幹システムの共同化 ・河合町を含む県北西部の2市5町で奈良県基幹システム共同化検討会の立ち上げ ・クラウドサービスを活用して基幹系業務システム共同利用を短期間のうちに実現 など
<p>取組等 説明</p>	<p>大阪市立大学大学院工学研究科都市系専攻嘉名准教授</p> <p>テーマ「協働と連携のまちづくり・奈良モデル」について取り組み等説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画制度における地方分権改革と課題(専門的な職員の不足、技術・ノウハウの継承が困難 など) ・まちづくり、地域活性化のための課題(地域住民による主体的なまちづくりの必要性) ・エリアマネジメント、BID(Business Improvement District)に関する研究 ・オーストラリアのメルボルンにおけるThe 20-minute Neighbourhoodの取り組み ・富山市における富山グランドプラザ(まちなか広場)の設置 など

意見①	荒井奈良県知事
<p>森三郷町長から発表のあった、生ごみを有機肥料化し花づくりなどの植栽整備に活用するというのは、すばらしい取り組みだと思います。またリサイクルの生ごみ資源化はすばらしい発想だと思います。今中上牧町長からは滝川を利用した遊歩道、平井王寺町長は大和川のきれい化、岡井河合町長からはクラウド共同化というような、それぞれ先進的な取り組みのご紹介がございました。</p> <p>まちづくり協定のテーマは、例えば大和郡山市では近鉄郡山駅の北への移設や、橿原市では医大新駅の設置、奈良市ではJR奈良駅とJR郡山駅の間にも新駅を作ろうという鉄道駅の話、あるいは天理市や御所市で駅前の賑わいをつくろうという賑わいのテーマがございます。また、桜井市では大神神社などの参道の賑わいをつくろう、長谷寺の賑わいをつくろうといったようなこともございます。桜井市などでは地域包括ケアシステム構築というようなテーマもございます。それから御所市、大和高田市などでは商店街活性化のテーマがございます。地域の交通移動手段を確保するテーマもございます。このようなテーマに県と市町村、また市町村同士が連携して取り組んでいるのがまちづくり協定でございます。</p> <p>森三郷町長の生ごみの資源化というのは大事なテーマですし、信貴山・大門ダムは「四季彩の庭」づくりの一つの小庭になっております。このような小庭を奈良県内51箇所を設定して、同時並行的に植栽整備を行っております。馬見丘陵公園も51箇所のうちの一つの小庭として整備をしております。今、奈良市の大宮通りに花をたくさん植えており、県は植栽に力を入れております。</p> <p>平井王寺町長から話がありましたが、大和川の高水敷を利用して道をつくり、花もきれいにしようという発想はすばらしいと思います。三郷町と王寺町はジョギングコースの整備をされます。これは奈良モデルの広域連携になりますので、奈良県から財政的な支援もさせていただこうかと思っております。</p> <p>岡井河合町長はクラウド共同化について発表されました。これは、奈良モデルの走りでもございましたが、十分な支援がなくてもこれだけのことをされて、随分経費節減をされました。すばらしいことをいただいております。</p> <p>この地域は大変先進的な地域で日頃から感心しておりますが、これからいろいろ発想を豊かにして県も参加させていただいて、まちをどんどん良くなっていきたいと思っております。</p>	

意見②	森三郷町長
<p>先程発表した大門ダムの堤を歩けるようになるのが平成28年度になります。きれいな花が植わっていますので、どうか皆さんが訪れていただくことを期待しております。</p> <p>リサイクル・フラワー・アンド・ベジタブルセンターでは、今、花の苗の予約を承っております。どうか皆さんよろしくお願いたします。</p>	

意見③	今中上牧町
<p>上牧町でも、総合計画とひと・まち・しごとの地方創生の計画を今年度からつくっているところでございます。新たな事業やいろいろな計画というのは、それらをつくる過程の中でしっかりと住民の方々に考えていただく、また示しながら進んでいくということになります。上牧町としてはその計画の中に、先程荒井知事からおっしゃっていただいた部分もしっかり盛り込みながら、これからのまちづくりに進んでいくことができたらと考えております。あくまでも上牧町としては、先ほどNPO法人楽しいまちづくりの会の活動も紹介させていただきましたが、協働と参画、情報共有という考え方でまちづくりをしていこうというように考えております。</p>	

意見④	平井王寺町長
<p>王寺駅周辺のまちづくりをどうするかということが大きなテーマでございます。王寺町自身も本当に広いところで、北部と南部とに分かれます。それからもう一つ、駅という意味で畠田駅もでございます。そういう意味で駅周辺と言ってもいろいろ事前に整理しておくべき課題が多いですので、それを整理しつつ、できるだけ早いうちに連携協定の締結を考えております。</p> <p>王寺駅は王寺だけのポテンシャルではなく、広域の拠点であります。そうしますと、やはりJRの協力も当然要るわけでありまして。県と連携しながら、王寺駅周辺のまちづくり、畠田駅の駅前広場整備などを進め、いろいろ知恵、財政的なことも含めてご協力をお願いしたいと思います。</p>	

意見⑤	岡井河合町長
<p>今まで、この4町(三郷町・上牧町・王寺町・河合町)と違う枠組みで動いてきたという一つの固い頭がございます。その北葛城郡4町でやってきた枠組みと違う、今日は新たな枠組みを模索していただいたと思います。</p> <p>馬見丘陵公園をどう活用していけるか、河合町と広陵町の問題が大きく関わってまいります。その2町で、やはり県に入っただいて、馬見丘陵公園を我々の観光の拠点にしていかなければなりません。</p>	

意見⑥	大阪市立大学大学院工学研究科都市系専攻 嘉名准教授
<p>お話を聞いていると、やはり町ではこれまで横の連携はたくさん進めてこられたのだというように理解をしました。助け合う土壌があるということでしょうか。町と町の連携ですから、水平補完というような言い方をされますが、これはすごくよく行われています。知事がおっしゃっているこの奈良モデルというのは、垂直補完という上下関係があるイメージなので、少し考え方が違うということだと思いますけれども、県と市町村が一体的に、課題に機動的に物事を解決するために取り組んでいく、新たな仕組みを導入していくということです。これは全国的にもかなり注目されています。</p> <p>枠があって取り組みをやるというよりは、テーマを決めて連携のあり方、包括協定のあり方を決めていくという意味ではかなり画期的で、非常に注目されているということですから、まさに県と市町村との関係自体を新しく創造していく取り組みだと思います。</p> <p>この地域ですと、川を生かしたまちづくりというような大きなテーマを町同士で連携して考えていくというようなことも一つ考えられると思いますし、枠組みさえ整えば、いわゆる河川準則の特例というようなことで、河川空間も賑わい利用できるというような規制緩和などのチャンスもありますから、そういったものを活用しながら、エリア全体で平常時は川を生かしたまちづくり、災害時は防災のこともしっかり考えるということで、流域のまちづくりが1つテーマになるという気がいたしました。</p> <p>文化観光のまちづくりというようなところも、市町村では一生懸命やっておられるのですが、なかなか市町村だけでは発信力がありません。ここはやはり県が中心となって、2020年のオリンピックまでにたくさんの観光ルート、行程ルートを作っていくということが求められていく中で、奈良県に対する期待は非常に全国的にも高いということです。それだけおもてなしをするコンテンツにあふれているのが奈良県でございますから、ぜひそういうような視点での広域連携、あるいは奈良モデルの構築というの、一つアイデアとしてあるかと考えています。</p>	

総括	公立大学法人奈良県立大学 伊藤副理事長・学長
<p>各町長の方からは、具体的にそれぞれの取り組みをご紹介いただきました。独自の取り組みもあれば、既に連携した取り組みもあるということで、奈良モデルの最初の成功事例としてのクラウド化というものがありました。嘉名先生からは、まちづくりの新しい考え方、経営マネジメントなど、国内外の先進事例のご紹介をいただき、地域の課題が複雑化、多様化している中で、連携の必要性が高まっているというお話がありました。そして各地域が主体となってやるのが非常に大事だというお話でした。</p> <p>荒井知事からは、各町長さんからのご意見を踏まえて、荒井知事の方から逆に連携についてアプローチがあり、各町長さんの方からはぜひともというお答えが返ってまいりまして、これからさらに進んでいこうと思います。</p> <p>最後に追加意見として、岡井河合町長のお話の中で気が付いたことがあったのですが、今まで思っていた連携すべき相手が、今回少し違うメンバーが揃っているということでしたが、地域の課題は非常に多様ですから、必ずしも隣接した市町村だけではなくて、場合によっては離れている自治体同士の連携の可能性があるとしたいと思います。また、そこをつないでいくのが、最初に荒井知事がおっしゃっていたような奈良モデルの奈良県の役割だと思います。</p>	